

## Juvenile Child Molester の発生モデルの構築 — アタッチメントに注目して —

池上 駿・高岸 幸弘

### I. はじめに

近年、青少年による性加害行動への関心が高まっている。令和4年の警察庁の調査によると、青少年の非行の総数は減少傾向にある一方、強制わいせつや強制性交等の性加害行動は微増している（警察庁, 2022）。青少年による性加害という行為が社会に与えるインパクトは大きく、一度性加害の問題を起こしてしまうと、当該青少年の地域での受け入れは難しくなる。とりわけ年少児への加害となると、社会への衝撃はさらに大きいものとなる。新たな被害児を生まないためにもこの問題の解決は急務と言える。この問題を解決するための試みのひとつが、性加害児童への治療介入である（Becker, 1990）。初期の実践では、成人の性犯罪者の再犯防止モデル（Relapse prevention）を雛形とした治療プログラム（以下、再犯防止プログラムという）が彼らに提供された（藤岡, 2006）。再犯防止プログラムは、性加害の再犯防止を目的として、性加害につながる歪んだ認知を修正したり、再犯のリスクが高まる行動にストップをかけたりできるようにするものである。再犯防止プログラムは、どのような背景の児童であっても一律に、性加害のリスクを低減するためのテーマについて学習させるという方法である。それはつまり、性加害児童は一つの同質な集団であるとの想定で、再犯防止プログラムが用いられてきたということである。再犯防止プログラムは、性加害児童の再犯防止に有効という報告がある一方で、一律に行うプログラムは有効でないといわれる報告もあり、効果の報告にはばらつきがある（藤田, 2008; Dopp et al., 2015）。この治療効果のばらつきは、性加害児童の類型化の研究によって説明できると考えられる。近年の性加害児童の類型化の研究が進められる中では、性加害児童は一つの同質な集団でなく、多様な集団であるという見方が優勢となっている（Righthand & Welch, 2004）。性加害児童が多様な集団であるとするなら、性加害児童の中のある一群には再犯防止プログラムが有効である一方で、別の一群には再犯防止プログラムが有効でないということが起こっても不思議ではない（Lindsay, 2021）。そのことが再犯防止プログラムの効果の報告にばらつきが生じている要因かもしれない。

そこで、本稿ではこれまでの類型化の研究を概観し、整理する。性加害児童に対する治療効果のばらつきは、性加害児童にサブタイプが存在するということによって説明が可能なのか検討する。また、タイプを明確に分けることが可能であれば、性加害児童の中のどのような一群に従来の治療が効果的で、どのような一群には従来の治療が効果的でないのかを検討する。その上で、社会に対する大きな衝撃となる、年少児が被害を受ける性加害事案に焦点を当て、性加害児童の発生モデルの構築を行う。

## II. 類型化の研究

性加害児童は他の非行少年とは明確に異なる一群であると考えられてきた (Tinklenberg et al., 1981; Marshall et al., 1993)。しかしその後、性加害児童の類型化の研究が蓄積されたことが、上の仮定に疑義を呈することとなった。性加害児童の中にサブタイプが存在することが明らかになり、性加害児童の中でも、一般的な非行少年に類似した特徴を持つ一群と、他の非行少年と異なる特徴を持つ一群が存在することがわかってきたのである (O'Brien & Bera, 1986; Butler & Seto, 2002)。

たとえば、Butler & Seto (2002) が注目したのは、その他の犯罪を併発する性加害青年と、その他の犯罪を併発しない性加害青年である。彼らは、その他の犯罪を併発する性加害青年が一般的な非行少年と類似した特徴を有している一方で、その他の犯罪を併発しない性加害青年は、小児期の問題行動が有意に少なく、適応が良好で、向社会的態度が強く、将来の非行リスクが低かったことを示している。そして性加害児童のタイプによって治療の方向性が異なることを強調している。

その後、Seto & Lalumiere (2010) によって、メタアナリシスが行われ、被害者の年齢が、性加害行為と関連因子 (アタッチメント、ソーシャルスキルの欠如、非典型的な性的関心) におけるモデレーターである可能性が示唆された。彼らは年少児に対して加害を行う児童 (Juvenile Child Molester, 以下 JCM という) と同年代あるいは年長者に対して加害を行う児童 (Peer Abuser, 以下 PA という) の2つに分類して検討することの有効性を示唆するとともに、JCM は性的虐待の割合が有意に高く、一般非行リスク因子は有意に低いことを報告した。

Ueda (2017) は、1990年から2016年までの被害児の年齢によって区別する性加害児童の類型化の論文を整理しレビューしている。JCM の特徴として、従順で、自尊感情が低く、内在化問題行動を示す傾向などが示された。また、社会的な側面としては、仲間からのいじめや拒絶、仲間とのかわりの少なさ、社会的適性の低さが挙げられている。一方、PA の特徴としては、衝動性、外在化問題行動、家族の機能不全の問題などがあり、これらの特徴は、一般的な非行少年と類似していることを示した。

Ueda (2017) のレビューによって、JCM と PA がそれぞれ異なる特徴を有していることが示唆されたが、Brown (2019, 2022) は、被害児の年齢によって区別される一群について、さらに詳細に検討している。Brown (2019) は、11歳から20歳の573人の男性の性加害青年を対象とし、潜在クラス分析を用いて、性加害青年が4つのクラスに分類されることを示した。その4つのクラスとは、被害児が年少児で、暴力を用いない Child Victims/Nonviolent (CVN)、被害児が同年代の女性である Female Peer Victims Only (FPV)、被害児が年少の男児である Male Child Focus (MCF)、12歳以前に性加害を起こしており、被害者が複数である Early Starter / Multiple Victims (ESMV) であった。Brown の言う CVN と MCF は JCM に集約され、Brown が CVN の特徴として挙げているソーシャルスキルの未発達や、多くの時間を一人で過ごしていることは、Ueda (2017) が示した JCM の特徴と重なる。また CVN は、加害の際に物理的な力や脅しなどの方略を用いず親切にする、お菓子をあげる、一緒にゲームをするなどして好意を示すなどのグルーミング (grooming) を用いる傾向が高いとした。さらに、PA を表す FPV は、他の3つのクラスよりも有意に暴力的であり、これまでの研究と一致している。

類型化の研究から、性加害児童の特徴や背景が多様であることが明らかになることに伴い、それぞ

れの性加害児童によって異なる治療介入が必要であるという考え方が広がっている。Ueda (2017) は JCM と PA それぞれに特化した治療を推奨しており、JCM に対しては、セルフエスティームや社会的適性の向上に重点を置くべきとしている。一般的な再犯防止プログラムは、反社会的行動を標的としているため、不安や従順なパーソナリティ特性を持つ JCM に対しては悪影響を及ぼす可能性があるという。これはつまり、従来の再犯防止プログラムは JCM には効果的でないということである。したがって従来のプログラムが効果的であったのは PA の性加害児童に対してであったと推察される。

従来のプログラムが効果的でない JCM は対人関係の築き方に問題があると考えられるが、対人関係の築き方に大きく関わってくるのがアタッチメントである。不安定なアタッチメントは、ソーシャルスキルの低さ、仲間との関わり方の少なさ、社会的適応の難しさにつながる (Rich, 2005)。これら不安定なアタッチメントに端を発する特徴と JCM の特徴は重なる部分がある。そこで、アタッチメント理論を概観し、アタッチメントの観点から性加害行動を検討する。

### Ⅲ. アタッチメントの観点

Bowlby は、動物としてのヒトには生まれながらにしてアタッチメントシステムが備わっていると想定した (Bowlby, 1969/1982, 1973)。乳児が危険や恐れを感じるとアタッチメントシステムが活性化し、主な養育者 (アタッチメント対象) に向けたアタッチメント行動が引き起こされる。アタッチメント行動によって養育者と近接することにより、乳児は安心や安全の感覚を回復し、アタッチメントシステムが沈静化する (Ainsworth et al., 1978)。そうした経験が蓄積されることで、子どもは何かあったらあそこにいけば保護してもらえると見通しと安心感を持つことができるようになり、この安心感に支えられて、自律的に探索活動を起こすことができるようになる (Bowlby, 1988)。もし、子どものアタッチメント行動が頻繁に無視されたり、養育者からの助力を引き出せないという経験の反復がある場合、子どもの中に根深い無力感が形成されることとなる (遠藤, 2021)。

また、アタッチメントは、情動調節の発達にも重要な役割を果たしている。乳幼児はアタッチメントシステムを基盤として養育者と関わりながら情動を調節する経験を重ね、情動の自己調節を身につけていく。乳幼児のアタッチメント行動に対して養育者が適切に応答できれば、乳幼児の中に安定したアタッチメントが形成され、情動を調節する能力に長けた子どもに育つ (上地, 2015)。一方、乳幼児のアタッチメント行動に対する養育者の応答に何らかの不具合がある場合は、アンビバレント型、回避型、または無秩序／無方向型の3つのタイプの不安定なアタッチメントを形成するリスクが高まる。不安定なアタッチメントは情動調節スキルの低下につながる事が分かっているが、情動調節スキルの低下とは、不安定なアタッチメントを基盤としたため、情動調節の方法が不適切なものになっているということである (Hudson & Ward, 1997)。

回避型のアタッチメントを形成する乳児は、アタッチメントのシグナルを最小限に抑え込み、養育者の応答を受けようとしないまま探索活動に向かう (遠藤, 2021)。彼らは誰かの助けを借りて安心を得ようとしないのである。結果として、彼らはアタッチメントシステムを活性化させないように、他者との関係を回避する方向へと発達する。他者との関係を軽視することで、つながりを断とうとすることもあるかもしれない。アンビバレント型のアタッチメントを形成する乳児は、危機が訪れた際に強いアタッチメント行動を示し、なおかつ養育者との再会においてもそのネガティブな情動状態を

長く引きずり、いつまでもアタッチメント対象にくっつく姿がある。彼らの情動調節の方法としては、過度に他者の助けを求め、情動が収まるまで探索活動に移ることができずに引きこもるといった特徴がある。このような、引きこもることによって情動を調節するパターンは、不安、うつなどとの関連があると報告されている (Kim & Cicchetti, 2010; Zaremba & Keiley, 2011)。これら回避型とアンビバレント型という2つのアタッチメントは、不安定ではありながらも養育者との間でアタッチメントが組織化されている。しかし、保護されるはずの養育者から虐待を受けるとき、乳児は安心を求めするために近づくのが良いのか遠ざかるのが良いかわからないという葛藤を抱え、混乱したアタッチメントの型、つまり組織化されない無秩序／無方向型のアタッチメントが形成されることになる (Main & Hesse, 1990)。無秩序／無方向型のアタッチメントを形成する子どもは、だれかれ構わず攻撃しようとしたり、あるいはかんしゃくが出たり、自己破壊的な行動をとったりなどがみられる (遠藤, 2021)。彼らのアタッチメントは組織化されていないため、アタッチメントをベースとした情動調節の方法も一貫しないものとなるのだろう。

ここまで、アタッチメントのタイプによって情動調節の方法が異なることを述べたが、アタッチメントのタイプと情動調節の方法は性加害行動の類型にも関係している (Miner, et al., 2010; Zaremba et al., 2011; Ogilvie et al., 2014)。性加害行為の類型とアタッチメントのタイプとの関連を示した児童の研究は限られているため、以下では成人の研究も参考にしながら、JCM の特徴を捉えたい。青年期、成人期のアタッチメントの型を測定する方法としては、半構造化面接を用いた成人アタッチメント面接 (AAI: Adult Attachment Interview; Main, Kaplan, & Cassidy, 1985) があるが、これは Ainsworth らによる乳児のアタッチメントパターン分類に倣ったものである。それぞれの関連を表1に示す。

表1 アタッチメントの測定方法とアタッチメントの分類

発達段階	乳児期	青年期・成人期
測定法	ストレンジ・シチュエーション法	成人アタッチメント面接
安定型アタッチメント	安定型	安定型
不安定型アタッチメント	回避型	軽視型
	アンビバレント型	とらわれ型
非組織なアタッチメント	無秩序／無方向型	未解決型 分類不能型

アタッチメントのタイプと性加害行動の類型の研究において、強姦者および近親姦者は軽視型に分類されることが多い (Ogilvie et al., 2014)。彼らは被害者を支配することで、親密さを回避しながら自己慰撫のために他者を使用すると考えられ、それゆえ情動調節の方法が軽視型との関連を示すのである (工藤・浅田, 2017)。親密さを回避して他者を道具的に使用する関係のとり方は、暴力を用いた犯罪者の特徴と共通している。(Miner, et al., 2010)。

家庭外の児童に対する小児わいせつ者の多くはとらわれ型に分類される (Ogilvie et al., 2014)。小児わいせつ者は、怒りが少なく、抑うつや不安が高く、女性への恐れが強いという特徴を持つ (Miner, et al., 2010; Ward et al., 1995)。彼らは自身の脅威とならない子どもに性的に接近する。不

安が強く、情動調節に他者の助けを強く求めようとする彼らの性加害は、支配的・暴力的関わりとは異なる、親密さを求める関わりという意味合いが強いと考えられる。

無秩序／無方向型のアタッチメントを持つ者の性犯罪は、無秩序なアタッチメントに由来する混乱した自己状態を制御するための葛藤方略システムであることが示唆される（工藤，2017）。つまり、性犯罪によって自己状態を制御しようとしているという点においては、回避型との関連が認められる。

ここで改めて、従来の再犯防止プログラムが効果的でない JCM についてアタッチメントのタイプという視点から考えてみたい。これまでに明らかになっている JCM の特徴（抑うつや不安、引きこもりなどの内向性問題行動、仲間からのいじめや拒絶、孤立感の高さ、ソーシャルスキルの低さ）は、これまで見てきたアンビバレント型（とらわれ型）のアタッチメントスタイルに起因する特徴と類似している。Miner ら（2010）は、JCM と一般的な非行少年を比較し、JCM がアンビバレント型と関連するアタッチメント不安の数値が高いことを示した。また、Miner ら（2016）では、JCM と物質使用等の問題で治療中の青年との比較をロジスティック回帰で分析し、そこでもアタッチメント不安が JCM を予測することを示している。その他、仲間からの孤立や性的なとらわれの低さも JCM の予測に関連していた。一方、PA と物質使用等の問題を抱える青年との比較では、有意な効果は認められなかった。

アタッチメントの不安定さと性加害行動の関連については、研究者間である程度の共通認識が得られている。性加害行動は、性行動の問題というよりも親密な関係の障害とみなされており、性加害行動の背景には、アタッチメントの不安定さによる親密な関係構築の困難があると考えられている（Marshall et al., 1993 ; Miner et al., 2010 ; Brown & Erin, 2022）。しかし、親密な関係構築の困難さを背景とした満たされなさをどのように性加害行動で満たすかという解釈は、研究者によってばらつきがある。Marshall ら（1993）は、彼らは親密さへの渴望をごまかすために、親密な関係を軽視する方向に進み、攻撃性とともな性を利用すると述べている。一方、Miner ら（2010, 2016）は、彼らは親密さへの渴望を性の利用によってごまかすのではなく、彼らなりの方略で性的に親密さを得ようとしたものが結果的に性加害行動とみなされるとした。

性加害児童とアタッチメントのタイプに関するここまでの整理によって考えられることは、Marshall らと Miner らの考えの違いはつまり、PA と JCM の違いを表している可能性が高いということである。Marshall らは回避型のアタッチメントを背景に持つ PA に類似した性加害児童を想定しており、Miner らはアンビバレント型のアタッチメントを背景に持つ JCM に類似した性加害児童を想定していたと考えられる。そのため、それぞれに対する効果的なアプローチは異なる。PA に対しては従来の再犯防止プログラムである程度の効果が期待できると考えられ、JCM に対しては、アンビバレント型のアタッチメントを背景に持つ JCM の特徴を踏まえたアプローチを提供する必要があるだろう。JCM の特徴を踏まえたアプローチを検討するために、次節ではアタッチメントの観点から構築された JCM の発生モデルを提案する。

#### IV. JCM 発生モデル～アタッチメントに注目して～

工藤・浅田（2017）は、非行や犯罪をアタッチメントの観点から説明するモデルとして二重のサークルモデルを呈示しており、工藤（2021）では、このモデルの改訂版として、関係性の中の暴力モデ

ルとして呈示している。藤岡（2006）の言うように、性加害も関係性の中の暴力のひとつのかたちであると考えるなら、JCMの発生モデルも、この工藤（2021）のモデルを一部参考にしながら理解することが可能と考えられる。以下に、JCMの発生モデルについてアタッチメントの観点から捉えたものを示す。

乳幼児が危機を感じるとアタッチメントシステムが活性化し、安全な避難場所（Safe haven）としての養育者に近接することで安全の感覚を回復する。また、養育者の関わりによって安心を感じることで、養育者が安心の基地（Secure base）となり、安定したアタッチメントが獲得される（図1）。JCMは、養育者とのかかわりの中で、アンビバレント型のアタッチメントをベースとした情動コントロールのパターンを獲得する（図2）。アンビバレント型のアタッチメントが形成される背景には、養育者の心理的な利用可能性が低いことや、養育者の不安によって子どもの探索活動をブロックすることなどがあると考えられている（Bowlby, 1988; Vivien Prior, & Danya, 2006）。子どもが援助を求めたとき、養育者が応答的であるか援助的であるかが不確実である環境では、子どもは分離不安を感じる傾向がある。養育者が安心の基地として十分に機能しないことから、子どもは養育者のもとの十分なエネルギーの充足がままならず、いつまでもアタッチメント対象にくっついていたり、外界の探索に不安を感じて引きこもったりすることとなる。そうすると、探索活動による達成経験が得られず、自律性が育たず、主体性の獲得も困難となる。自身のアタッチメント行動が養育者の助力をうまく引き出せないことから無力感も抱く。そのような状態の子どもが思春期を迎えたとき、彼らは多くの子どもと同じように、性への関心が芽生えたり、親以外の同年代の仲間をアタッチメント対象として利用したいという欲が出始めたりする（Hazan & Zeifman, 1999；遠藤, 2010）。しかしながら、彼

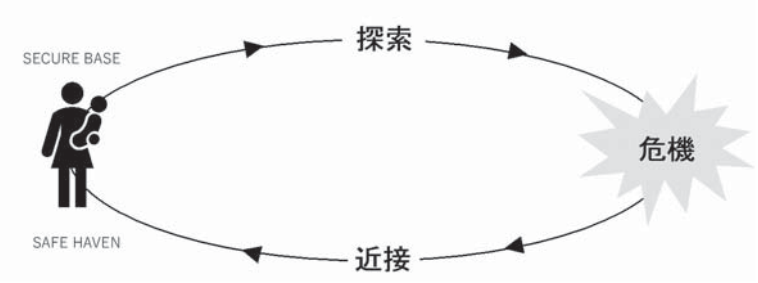


図1 アタッチメントの概念図

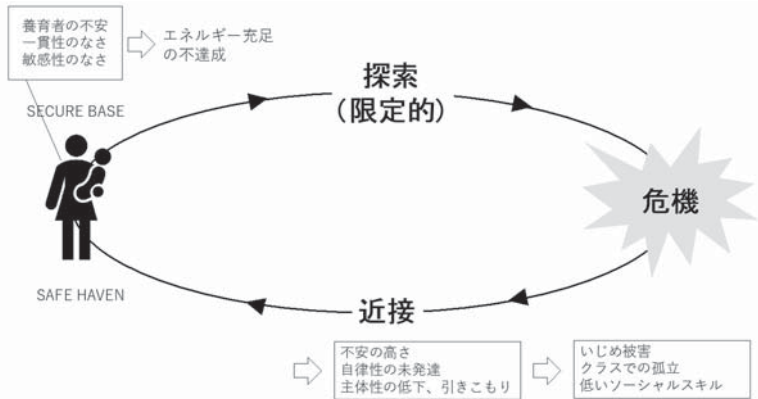


図2 アタッチメントの概念図（アンビバレント型）

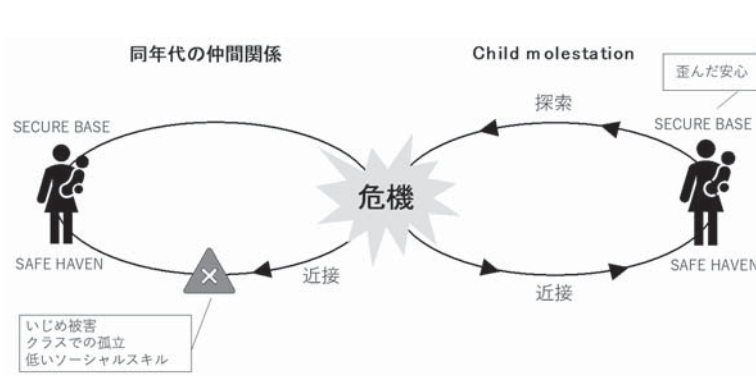


図3 アタッチメントの観点から捉えた JCM 発生モデル

らはソーシャルスキルが乏しく、仲間からの拒絶の経験があり、自信のなさもあるため、同年代の仲間をアタッチメント対象として利用するための交渉をうまく行うことができない (Baker et al., 2006)。そこで、彼らの脅威とはなりにくい年少児にその矛先が向かい、年少児との関係の中で安心感を得る (図3)。彼らは年少児を暴力で支配したいわけではない。親密な関わりの中で安心を得たいというのが彼らのニーズである。それは社会的には認められない歪んだ安心であるが、JCMにとってはやっと自分で開拓した安心の基地なのである。よって、また危機的な状況が起こると同じように年少児を利用しようとするのだろう。

## V. 今後の研究

アタッチメントの観点からの JCM の発生モデルについて論じてきた。本論文により JCM の発生モデルが提案されたことで、不安定なアタッチメントがどのように JCM の発生に寄与しているのかの仮説が提示された。JCM の背景にアタッチメントの問題があるとするなら、アタッチメントを意識したアプローチが彼らにとって効果的に働くと考えられる。安定したアタッチメントの構築を支援するようなアプローチは、Brown (2019) や Lindsay (2021) などでも提案されている。当モデルをベースとした、従来の再犯防止モデルとは異なる JCM に焦点化したアプローチを開発し、その効果を検証していくことが望まれる。

## 文献

- Ainsworth, M., Blehar, M., Waters, E., & Wall, S. (1978). *Patterns of attachment: A Psychological Study of the Strange Situation*. Hillsdale, NJ: Erlbaum.
- Baker, E., Beech, A., & Tyson, M. (2006). Attachment disorganization and its relevance to sexual offending. *Journal of Family Violence*, 21, 221-231.
- Becker, J. V. (1990). Treating adolescent sexual offenders. *Professional Psychology: Research and Practice*, 21 (5), 362.
- Butler, S. M., & Seto, M. C. (2002). Distinguishing two types of adolescent sex offenders. *Journal of*

- the American Academy of Child & Adolescent Psychiatry, 41 (1), 83-90.
- Bowlby, J. (1969/1982). Attachment and loss. Vol. 1. Attachment. New York: Basic Books. 黒田実郎・大羽 葵・岡田洋子・黒田聖一 (訳) (1991). 『母子関係の理論 ①愛着行動 (新版)』. 岩崎学術出版社.
- Bowlby, J. (1973). Attachment and loss. Vol. 2. Separation. New York: Basic Books. 黒田実郎・岡田洋子・吉田恒子 (訳) (1991). 『母子関係の理論 ②分離不安 (新版)』. 岩崎学術出版社.
- Bowlby, J. (1988). A Secure Base: Clinical Applications of Attachment Theory. London: Routledge. 二木武 (監訳) (1993) 『ボウルビィ 母と子のアタッチメント』. 医師薬出版.
- Brown, A. (2019). Using latent class analysis to explore subtypes of youth who have committed sexual offenses. *Youth violence and juvenile justice*, 17 (4), 413-430.
- Brown, A and Erin Gardner (2022). Families, Mental Health, and Delinquency: Testing Sexual Crime Typologies of Youth Who Sexually Harm. *Youth Violence and Juvenile Justice* 2022, Vol. 0 (0) 1-26
- Dopp, A. R., Borduin, C. M., & Brown, C. E. (2015). Evidence-based treatments for juvenile sexual offenders: Review and recommendations. *Journal of aggression, conflict and peace research*, 7 (4), 223-236.
- 遠藤利彦 (2021) : 入門アタッチメント理論 臨床・実践への架け橋 日本評論社.
- 藤岡淳子 (2006) : 性暴力の理解と治療教育 誠信書房.
- 藤田尚 (2008) : アメリカにおける性非行少年の処遇プログラム 比較法雑誌 / 日本比較法研究所, 42 (3), 190-199.
- Hazan, C., & Zeifman, D. (1999). Pair bonds as attachments. *Handbook of attachment: Theory, research, and clinical applications*, 336-354.
- Hudson, S. M., & Ward, T. (1997). Intimacy, loneliness, and attachment style in sexual offenders. *Journal of Interpersonal Violence*, 12 (3), 323-339.
- 上地雄一郎 (2015) : メンタライジング・アプローチ入門: 愛着理論を生かす心理療法. 北大路書房.
- Kim, J., & Cicchetti, D. (2010). Longitudinal pathways linking child maltreatment, emotion regulation, peer relations, and psychopathology. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 51 (6), 706-716.
- 工藤晋平 (2021) : アタッチメントの視点から見た虐待や暴力の加害者の理解と支援 子どもの虐待とネグレクト, 23 (3), 245-250.
- 工藤晋平, 浅田 (平野) 慎太郎 (2017) : アタッチメントの観点から非行・犯罪をモデル化する 心理学評論, 60 (2), 140-162.
- 警察庁 (2022) : 令和4年警察白書統計資料. <https://www.npa.go.jp/hakusyo/r04/data.html>
- Lindsay, T. (2021). Multi-Family Group Intervention: Affect Regulation to Improve Attachment for Adolescents Adjudicated of a Sex Offense and their Maternal Caregivers. Auburn University ProQuest Dissertations Publishing.
- Main, M., & Hesse, E. (1990). Parents' unresolved traumatic experiences are related to infant disorganized attachment status: Is frightened and/or frightening parental behavior the linking



- mechanism? In M. T. Greenberg, D. Cicchetti, & E. M. Cummings (Eds.), *Attachment in the preschool years: Theory, research, and intervention* (pp. 161-182). The University of Chicago Press.
- Main, M., Kaplan, N., & Cassidy, J. (1985). Security in infancy, childhood, and adulthood: A move to the level of representation. *Monographs of the Society for Research in Child Development*, 50 (1-2), 66-104.
- Marshall, W. L., Hudson, S. M., & Hodgkinson, S. (1993). The importance of attachment bonds in the development of juvenile sex offending. *The juvenile sex offender*, 164-181.
- Miner, M. H., Robinson, B. E., Knight, R. A., Berg, D., Swinburne Romine, R., & Netland, J. (2010). Understanding sexual perpetration against children: Effects of attachment style, interpersonal involvement, and hypersexuality. *Sexual Abuse*, 22 (1), 58-77.
- Miner, M. H., Swinburne Romine, R., Robinson, B. B. E., Berg, D., & Knight, R. A. (2016). Anxious attachment, social isolation, and indicators of sex drive and compulsivity: Predictors of child sexual abuse perpetration in adolescent males? *Sexual Abuse*, 28 (2), 132-153.
- Ogilvie, C. A., Newman, E., Todd, L., & Peck, D. (2014). Attachment & violent offending: A meta-analysis. *Aggression and violent behavior*, 19 (4), 322-339.
- O'Brien, M., & Bera, W. (1986). Adolescent sexual offenders: A descriptive typology. *Preventing Sexual Abuse*, 1 (3), 1-4.
- Rich, P. (2005). Attachment and sexual offending: Understanding and applying attachment theory to the treatment of juvenile sexual offenders. John Wiley & Sons.
- Righthand, S., & Welch, C. (2004). Characteristics of youth who sexually offend. *Journal of child sexual abuse*, 13 (3-4), 15-32.
- Seto, M. C., & Lalumiere, M. L. (2010). What is so special about male adolescent sexual offending? A review and test of explanations through meta-analysis. *Psychological bulletin*, 136 (4), 526.
- Tinklenberg, J. R., Murphy, P., Murphy, P. L., & Pfefferbaum, A. (1981). Drugs and criminal assaults by adolescents: A replication study. *Journal of Psychoactive Drugs*, 13 (3), 277-287.
- Ueda, M. (2017). Developmental risk factors of juvenile sex offenders by victim age: An implication for specialized treatment programs. *Aggression and Violent Behavior*, 37, 122-128.
- Vivien Prior, Danya Glaser (2006). *Understanding Attachment and Attachment Disorders : Theory, Evidence and Practice*, Jessica Kingsley Publishers. (加藤和生 (訳) (2008) 『愛着と愛着障害：理論と証拠にもとづいた理解・臨床・介入のためのガイドブック』北大路書房)
- Ward, T., Hudson, S. M., Marshall, W. L., & Siegert, R. (1995). Attachment style and intimacy deficits in sexual offenders: A theoretical framework. *Sexual Abuse: A Journal of Research and Treatment*, 7, 317-335.
- Zaremba, L. A., & Keiley, M. K. (2011). The mediational effect of affect regulation on the relationship between attachment and internalizing/externalizing behaviors in adolescent males who have sexually offended. *Children and Youth Services Review*, 33 (9), 1599-1607.

## A Developmental Model of Juvenile Child Molester : Focusing on attachment

Shun Ikegami, Yukihiro Takagishi

In recent years, there has been increasing concern about juvenile sex offenders and the need for intervention support for them. However, reports on their treatment effectiveness are mixed. This paper reviews previous research conducted on the classification of juvenile sex offenders. It examines whether the existence of subtypes of juvenile sex offenders can explain the variation in treatment effectiveness. We found the groups of juvenile sex offenders for whom conventional treatment is effective and ineffective. We then construct a developmental model of juvenile child molesters. Juvenile child molesters have attachment problems and seek to feel secure in their relationships with younger children who are less likely to be a threat when they reach adolescence.